

自分が・家族が・大切な人が がんになった時のために

“2人に1人ががんになる時代”と言われ、がんが身近な病気になったとしても、誰しもがんと診断された時のショックや不安は大きく、計り知れないものです。また、がんに罹患することで生じる生活課題や悩みは、年齢やライフステージによって異なります。

自分のために、家族や大切な人のために、がんに関わる情報や、医療機関での診療体制や支援体制を把握することで、不安の軽減やその人らしい療養生活の選択に繋げることができます。

是非いっしょに学び、考えてみませんか。

WEB 開催

2023. 1/22 日 13:00-16:00

事前登録必要 2023.1.21 まで

会場開催はありません

2023.2.5 までオンデマンド配信を行います。

オンデマンドで視聴される方も事前登録をお願いします。

事前登録必要

2023.1.21 までに以下のURLか右のQRコードにアクセスして

参加の事前登録をしてください。 <https://ws.formzu.net/fgen/S923441206/> ▶



問合せ

☎ 043-226-2806

千葉大学医学部 臨床腫瘍学（担当：庄司）
受付時間 10:00~16:00 ※土日祝日を除く

自分が・家族が・大切な人が がんになった時のために

千葉大学病院 腫瘍内科長

滝口 裕一



自分が、家族が、大切なひとが重い病気になったら日常生活は大きく変わってしまうかも知れません。特にがんは治療が大変で長期間に及ぶこともある、治らないことも多い、とされていますのでなおさらですね。“日本人の2人にひとりががんになる” のだからあなただけではいいですよ、といわれても何の慰めにもならないでしょう。でも自分のlife（命、生活、人生）です。守るべきものは守らなければなりません。家族との日常生活、仕事、友人関係や趣味など、今まで通りにできることと、できないこともあるでしょう。できるだけ今まで通りの生活を続けたいとお考えのあなたに、私たち医療者はアドバイスや手助けをしたいと考えています。

がんだけでも大変なのに2019年の暮れ以来、新型コロナは世界中の人々を苦しめています。自分や家族が感染したり、仕事が制限されたり、収入が減った方には心よりお見舞い申し上げます。そうでなくても世界中のほぼ全員がこの感染症から直接の影響を受け、私たちの日常生活を大きく蝕みました。新型コロナに負けていてはがんには勝てないと啖呵を切って2020年1月の市民公開講座は「with コロナ時代のがん治療～変わらないサポートがここにある～」というテーマで開催しました。今年がコロナ禍での3回目の開催となります。日本のがん診療はコロナには負けないことが証明されたと言えましょう。

講座の前半では千葉大病院職員の講演を聞いていただき、はじめてがんと診断された方が治療を受けるまでに必要なことを知っていただきます。今の仕事を継続すること、将来、妊娠・出産を考えている方はその準備をすることも含まれます。特別講演には医師として肺がんなどの治療にも多くたずさわっている清水秀文氏（JCHO東京新宿メディカルセンター呼吸器内科部長）をお迎えし「医師との溝を埋めてみよう」と題したご講演を賜ります。現役の医師として活躍しながら闘病経験もある清水氏のご講演はきっと皆様の心に響くことと思います。オンライン講座はパソコンがなくてもスマホがあれば参加できます。どうかいずれの講演も楽しみにしていただきたく存じます。

千葉大病院は平成20年以降、がんに関する市民公開講座を毎年開催しており、今年で16回目になります。短い時間でお伝えできる情報には限りがありますが、自分や愛する人の健康を願う皆様のお役に立つことを願っています。

最後に、がんと新型コロナウイルス感染症が1日も早く克服されることを皆様と共に心より祈念いたします。

医師との溝を埋めてみよう

がんサバイバー
JCHO 東京新宿メディカルセンター
呼吸器内科部長

清水 秀文 氏



皆さん自らやご家族ががんになったとき、医師をはじめとした医療関係者との間に溝を感じたことはありませんか？忙しそうで色々聞くのがためられる、専門用語を羅列されて何を言っているのかわからない、丁寧に説明されたはずだけど頭に残らない等々。これはがんに限ったことではないかもしれません。一方で私たち医療関係者も、本当に知りたいことを聞き出せなかったり、伝えたいことが上手く伝わってないのではないかと悩む場面は多々あります。インターネットから様々な情報が手に入る世の中ではありますが、がんの種類や進行度、そして人生のステージや家庭環境はひとりひとり異なるわけですから、その人にとってのベストの選択肢を見つけるためには皆さんと医療関係者がしっかりと話し合っていく必要があります。しかしそのための時間が限られていることも事実です。私自身は10年前に縦隔原発胚細胞腫瘍の治療を受けているのですが、その経験を経て、この溝を埋めるためにできることを考えるようになりました。そして様々な縁にも恵まれ「患者さんのための肺がんガイドブック」の刊行に携われました。私の経験も踏まえたお話が、自分が・家族が・大切な人ががんになった時のために少しでも役立つことを期待しています。



演者 Presenter

堺田恵美子 [医師]



がんになったとき 診断から治療方針決定まで

がんは「国民病」といわれるまでになり、とても身近になりました。しかし、がんと診断されるとき、それは突然やってくるのがほとんどです。がん告知の直後は、不安や悲しみ、時に怒りを感じてしまうかもしれません。そんな時にも落ち着いて、正しく病気を理解し、納得して治療を選び、その後の様子を想像しながら、さまざまに準備できることが理想です。診断から治療方針決定までは、必ずしも一本道ではありません。あなた、もしくはあなたの大切な方ががんになった時のために知ってほしい「診断から治療方針決定まで」のプロセスを解説し、治療前に確認すべきポイントについてもお伝えできればと思います。

後藤 由美 [ソーシャルワーカー]



がんになっても 自分らしく働く

病院で、お仕事に関する相談もできることをご存じですか。がん相談支援センターでは、患者さんやそのご家族が安心・安全な医療を受け、住み慣れた地域で療養生活を送ることができるよう、医療や福祉に関する様々な相談を受けております。お仕事に関する相談もその一つです。

今回はがん治療を続けながら自分らしく働き・生活するために、医療スタッフや職場関係者とのやりとりのポイント、気になるお金のこと（医療費助成制度や所得補償制度等）などお話ししたいと思います。また、当院所属の社会保険労務士によるサポート体制に関しても、ご案内します。

講演を通して、患者さん・ご家族が感じる、働くことに関する様々な不安や疑問について一緒に考え、「がんになっても自分らしく働く」ための一助になれば幸いです。

千葉大学病院のスタッフが
お話しします



内海明香里 [薬剤師]



くすりはライフサポーター

外来でがん薬物療法（いわゆる抗がん剤治療）を受けられるようになり、自分らしい生活を続けながら治療を受けることが可能となってきました。外来治療ではほとんどの時間を自宅で過ごすことができます。この時、治療を継続するためには自宅で上手く副作用をコントロールすることが大切です。薬剤師は副作用を和らげる薬の使い方の説明など、お手伝いできることがあります。薬に関するサポート体制をご紹介します、どのように活用したらいいかお伝えします。

吉野有希子 [看護師]



がん治療後の妊娠のために 今できること

近年、医学の進歩に伴い、がんと診断されて、がんの治療だけを考える時代から、がんの治療を終えてからの人生についても考えながら治療を行う時代へと変化してきました。

がん治療を行ったあとの妊娠や出産について心配される方は少なくありません。当事者はもとより、自分の子、パートナー、配偶者がこれからがん治療を開始するにあたり、なにかできることはないかと悩む方もいらっしゃるでしょう。

がん治療すべてが将来の妊娠に影響を及ぼすわけではありませんが、一部の治療にはその可能性があります。がん治療開始前に、将来の妊娠のために知っておくべき情報について、また、妊娠の可能性を残す方法、についてお伝えできればと思います。

荘司 美紀 [看護師]



あなたの思い伝えよう、 あなたの大切な人の思い 聴いてみよう

がんなどの大きな病気にかかる、病気や治療のことで頭がいっぱいになってしまうかもしれません。私たち看護師は、病気や治療のことだけでなく、その人がどうしたら自分らしく過ごせるかについて考えることも大切にしています。自分の思いを伝えることやあなたの大切な人の思いを聴くことは難しいことかもしれません。そのきっかけになるお話ができればと思います。

プログラム Program

13:00～13:10	開会のあいさつ	横手幸太郎 [病院長]
13:10～13:25	講演 1 がんになったとき 診断から治療方針決定まで	堺田恵美子 [医師]
13:25～13:40	講演 2 くすりはライフサポーター	内海明香里 [薬剤師]
13:40～13:50	休 憩	
13:50～14:05	講演 3 がん治療後の妊娠のために今できること	吉野有希子 [看護師]
14:05～14:20	講演 4 がんになっても自分らしく働く	後藤 由美 [ソーシャルワーカー]
14:20～14:35	講演 5 あなたの思い伝えよう、 あなたの大切な人の思い聴いてみよう	荘司 美紀 [看護師]
14:35～14:50	休 憩	
14:50～15:05	質 疑 応 答	
15:05～15:50	特別講演 医師との溝を埋めてみよう	清水 秀文 [医師]
15:50～16:00	閉会のあいさつ	吉野 一郎 [副病院長]

プログラムの時間は
前後することがあります





A series of horizontal dotted lines spanning the width of the page, intended for writing notes or memos.